

景國者、鎮守府將軍利仁四世修理少進景通註三代孫也、父景遠者爲大學頭大江通國猶子、改藤氏於大江云云、

〔鹽尻三十一〕一異姓相續諸家大概

近衛信尋公

後陽成院皇子

一條昭良公

信尋公ノ弟

正親町季秀

源重保男

持明院基定 吉良義明男

以上藤氏

庭田經資

藤原公有男

白川雅陳

藤原永孝男

廣幡豐忠 久我通名男

以上源氏

東坊城盛長

藤原爲康男

以上菅氏

武家大概

保科正之

秀忠公男、今至正信平朝臣、復松平、

岩城貞隆

佐竹源義重男也、

上杉長尾氏

元平家、輝虎以來、冒藤原氏、

久松

元菅原、定勝、賜松平、故冒源氏、

右一萬石以上諸家也、其他ハ暫略之、

〔鹽尻二十七〕

一或問、久松氏は、菅家苗裔にして、尾州知多郡阿古屋の邑の産、久松彈正左衛門道定の孫なり、今源氏を稱す、是は久松因幡守康元等、大神君徳川の異父弟なりし故、源の姓を稱するが、子曰、不然、道定の玄孫左京進定氏男子なし、故に一色滿貞の二男を以て其女に配し、家を續しめ、一色左衛門尉詮定と號す、其子範勝、又久松民部大輔と稱せし、康元は詮定の七世佐渡守定俊子也、然ども詮定以來、實に清和源氏なる者なり、又與平氏は、兒玉黨にして平氏なりと聞ゆ、然るに是も源氏を稱するは、彼祖赤松則景の二男氏行、母方の族兒玉左衛門尉某が養子となりて、